



愛川ふれあいの村 8月の風景

平成30年8月 自然のたより

毎日のように“猛暑”“酷暑”という言葉を目にし、愛川ふれあいの村でもうだるような暑さが続きました。鳥の鳴き声も例年に比べると控えめ。にぎやかに聞こえてくるのはセミの声ばかりですが、そのセミも気温の高い日が何日も続くと寿命が短くなってしまふのだそうです。ただ、そんな暑さの中でも、草をかき分けると秋の虫たちが成長を続けています。虫の音がにぎやかで、涼しい秋が待ち遠しい、暑い暑い8月です。



ノコギリクワガタ



カノコユリ



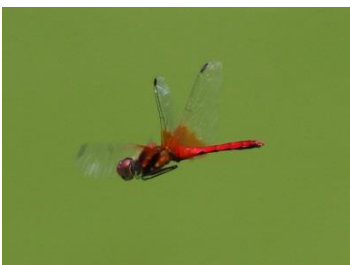
羽化したアカボシゴマダラ



国蝶 オオムラサキ



ヨメナ



ネキトンボ



ゴマダラチョウ



叩かないで！材打キブリ



ハゴロモ3種



ヤマアカガエル



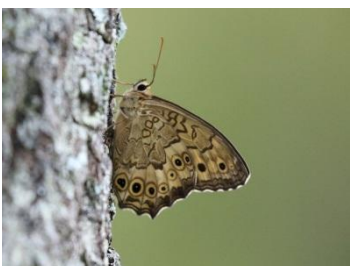
ミズタマソウ



ヒグラシに寄生するヒグラシ



クロアナバチ



サトキマダラヒカゲ



ウバユリでかくれんぼ

◆瑠璃色の輝き◆

～トワダオオカ～

夏になるとカブトムシやクワガタなど、子どもたちに人気のある虫が姿を見せます。トンボやバッタはつい目で追いかけてしまうものです。しかし、見つけて嬉しい虫だけが出てくるわけではありません。夜寝ているときに耳元で鳴る「ぷ～ん…」という羽音。チクリと肌を刺し、血を吸い、痒みを残していく『蚊』も現れます。虫偏に“文”の漢字を書くのは、この羽音を表しているという一説があります。

日本には約100種類の蚊がいますが、その全てが血を吸うわけではありません。日本最大級の蚊である『トワダオオカ』も、そんな血を吸わない蚊の1種。主に森の中で目撃される蚊です。人の血は吸わず、花の蜜を吸うため、人里に下りてくる意味が薄いのかも知れません。人を刺す種類の蚊も、オスは花の蜜を吸っているのが無害という話は最近有名になってきましたが…。トワダオオカは、オス・メスともに蜜を吸います。つまり人間にとって、全くの無害であるといえるでしょう。

しかし人間にとって無害であるからといって、他の生物にとって無害とは限りません。蚊の幼虫は『ボウフラ』と呼ばれ、主に水場で発生します。そしてトワダオオカのボウフラは、他の蚊のボウフラを捕食する肉食性なのです。つまり、他の蚊にとってトワダオオカのボウフラは天敵の1つ。そうだ！もっと食べてくれ！と応援したくもなりますが、他の蚊も必死に生きている結果です。トワダオオカの健闘を祈りつつ、虫除けで身を守る程度に抑えておきます。

(大谷)



▲トワダオオカ

★木、第2の人生★

日本には数種のカブトムシがいます。その中の1種、『コカブトムシ』は肉食で、朽木の中に身を隠します。そのため、朽木という隠れ家がないとストレスになります。

人は整った環境を好み、すぐに落葉落枝を廃棄しようとしています。しかし、そこはたくさんの生き物がすんでいる、いわば“家”なのです。

コカブトムシに関わらず、鳥が休む立ち枯れ木やキノコが生える朽木など、生き物にとって大切な役割があることを考えてみましょう。

(石川)

コカブトムシ



★ミョウガ(茗荷)★

ミョウガは、ショウガ科ショウガ属で中国・朝鮮半島・台湾・日本に自生する宿根性の多年草です。半日陰と湿った土壌を好み、地下茎を伸ばして増えます。

ショウガの仲間でも独特の香りがあります。香り成分や辛味成分などには、食欲増進・消化促進・血行を良くする作用などがあり、夏にピッタリの食材。そうめんや冷奴の薬味として食べてみてはいかがでしょうか。(菅原)

※ミョウガの香り・風味を残すために、食べる直前に刻み、あく抜きは短めにすると良い。



(吉田) 心か恵めきるれがな話
すとの知たも生こだ
るのた生こだ



いく。花にとってはとても迷惑から噛み切り、蜜だけをすって蜜のある花の後ろの方の距を外口吻が長くないクマバチは、蜜のある花の奥の方まで届いてしまうのでマルハナバチのように沢山の花粉は付着しない。

粉に大いに役立つ。ホウジャクの仲間は、長い口吻が蜜のある奥の方まで届いてしまうのでマルハナバチのように沢山の花粉は付着しない。

◎ 9月の注目ポイント ◎

立秋を過ぎ、野山では秋の草花も見られるようになってきた。道端のメヒシバの穂先に止まる雄のミヤマアカネが赤く染まり初秋を感じさせる。

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼

編集：吉田文雄・石川雄馬・大谷遼



愛川ふれあいの村で、検索★